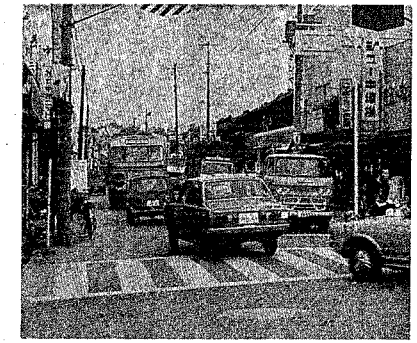
らく十五万人口を収容してもなお余裕があるはずであります。したがって指定農用区域のうち百ないし二百ヘクタール（三十万坪～六十万坪）が工場団地化されても、豊沃な農耕地は三千ヘクタール以上の田畑を保有しながら、相当大きな、あるいは多数の工場を誘致し得るでありましょう。

また、市勢の発展による商業地域は、現在の本町一、二三、四丁目をはじめ、県道新津――白根線に添う山谷、古田方面、並びに能代川分流によってそのふところを広げるであろう新町、金沢方面へ大きく展開されるべきものと思われます。公害問題の容易でない今日ではありますが、これが許容できる限界内の工場誘致と、現在市内の工場の転出を考慮して工業団地の設定を考えておりますが、これにはまず土地の取得が先決問題であります。これには、新津地域として新津市、亀田町、小須戸町、横越村の四市町村で「土地開発公社」設立の計画が具体的に進み、国・県も大いに勧奨しておりますので、四月に入って準備のできしだいに発足させるべく議案を提案してありますので、これが成立すれば工場団地の設定も大いに進捗すると思いますからなにぶんのご協力をお願いいたします。

◇◇◇ 道路開発 ◇◇◇

バイパス道路で市内通過車減らす
道路の整備改良進め通行に利便を



次に近代都市づくりは、まず道路づくりからといわれるほど道路問題は重要であります。とかく多くの都市がそうであるように新津市もまた道路開発の立ち遅れが痛感されております。近隣との交通の便利さと無用の車が市内を通過しないということが念願であります。

いま、新津市の道路の将来を考えますと、まず新潟バイパスは、昭和四十九年度二車線開通を目途としており、その用地については、少くとも四十八年度に若干残ることがあるとしてもほとんどその買収が終わる見とおしであります。さらにこの道路の三条方面への延長も、きわめて有望な展開をみせているようであります。また、市民会館から東島の県道、三条――新津線に合体する程島農道は、全部の土地買収の話し合いが終わり、四十七年度から一部工事に着手するはこびとなっております。これらの道路の開通と県道新津――白根線の拡幅により、新潟・亀田方面から加茂・三条方面へ行く市内通過車は、大幅に緩和されることになります。これによって俗に駅裏地帯から小合方面にかけて、さらに程島道路の開通により金津地区方面の都市開発は一段と進展するものと考えられます。

次に、関係市町村で改修促進協議会を組織して実現に努力している安田――五泉――新津（金津地区）――小須戸――白根線の改良工事も第二年度を迎えましたが、その進展はきわめて遅々としており、国・県に対し促進かたを要請し、ある程度上向いておりますが、この改良が完成すると五泉方面から小須戸、白根、加茂、三条方面へ行く車は、ほとんど市内を通過しないことになるはずであります。七日町道路の改良や東金沢――大安寺道路の改良も国・県に申請し、四十八年度市予算に計上し、ぜひとも実現すべく努力中のものでありますが、能代川分流後の右岸添い道路計画と、さらには新津――新発田――豊栄（東新潟港背後地）の道路の整備とともに、新津市東部地域発展の拠点となるものと考えております。

たん水、浸水解消へ
下水道工事も進展

近代的な衛生都市への意欲も

次いで水害多発で知られている能代川も、さいわいその降雨状況から小康を得ているところですが、しかしいつ氾濫するか予断を許さぬものがあります。大氾濫でなくとも能代川へ放流する各排水路も、着々と事務処理を進めてきましたが、今回この事業を特別会計とすべく、議案ならびに特別会計予算書を提案申し上げましたので何分のご審議をお願い申し上げます。

以上によって水害をなくし湛水をなくし、汚水を処理し尿も地上にとどめない清潔で衛生的環境の実現に希望を大きくするものであります。

大の難関とされた土地買収も順調に進み、この一、二年の間にすでに工事の着手が計画されるに至っており、一日も早くその実現に努力をするものであります。

さらに、山陵地帯の降雨時の流水による水害排除にもっとも大きな要素となっている新津郷土地改良区の国営による灌がい排水事業も、いよいよ工事事務所の設置がなって本格的工事に入ることになりました。

次に、市の特異の地形から市内いたるところが少降雨にも発生する湛水、浸水に悩まされておりましたが、下水道事業の進展につれ漸次解決されております。

昨年末この事業は、正式に公共下水道事業の認可を受けていよいよその第一期である中部地区の汚水、雨水の排除と終末処理場の実現にむかうことになったのであります。

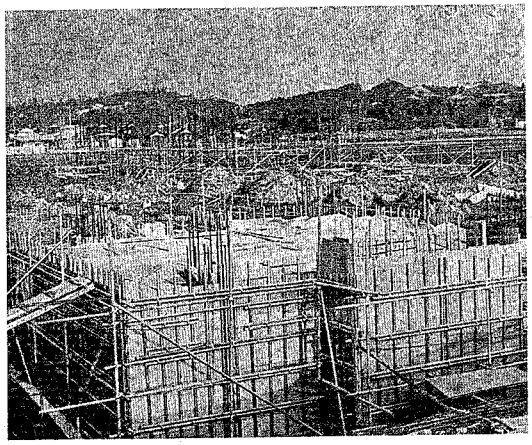
昨年十二月、下水道条例受益者分担金条例の議決をいただき、着々と事務処理を進めてきましたが、今回この事業を特別会計とすべく、議案ならびに特別会計予算書を提案申し上げましたので何分のご審議をお願い申し上げます。

以上によって水害をなくし湛水をなくし、汚水を処理し尿も地上にとどめない清潔で衛生的環境の実現に希望を大きくするものであります。

入校生募集
昼間部・夜間部
公認 新津自動車学校
新津市山谷町2丁目 TEL (2)-1192
通学にはマイクロバスをご利用ください

市民会館 十月に完成

付属装置や備品も整備



市民会館の建設工事も急ピッチで進んでいます

昨年十一月工事契約した市民会館の建設は、いよいよ二年目を迎え、今年十月完工の予定のことはすでに申し上げたとおりであります。四十八年度は、主体、電気、給排水冷暖房工事のほか、舞台装置ならびに入口付近の前庭工事を施工し、椅子、机をはじめ運営に必要な備品、体育装置施設などの整備も行なう計画であります。

なお、今年十一月には、待望の竣工式を計画しています。この会館は、全市民が活用するものであり、したがって竣工式は、派手なことよりも全市民的行事としたい念願であります。当初は、一部竣工式のために予算をお願いしてありますが、いずれ竣工時までに行事計画をたて、補正予算を計上してご協議申し上げたいと考えております。

申し上げるまでもなくこの会館は、市民のレクリエーション行事の拠点であり、各種の文化活動、体育活動の拠点であり、あらゆる社会活動、経済活動の集いの場として利用されるものと考えられますし、さらには、近隣市町村間の交流的な諸行事のセンターとして、あるいはまた、広地域、広況な各種団体の大会、行事などの開催場所として、市勢発展に大きな指標を与えるものと信じております。

老人、妊産婦、乳児は
医療費無料に
市単独で実施

所得制限受けるや者 重度心身障害児者は

さて福祉政策は、いまや国をあげての国民的要望となっており、国もその施策を前進させつつありますがなお多くの不満があるのであります。

申すまでもなく社会福祉は地域社会にとってもっとも重要な問題であり、とくに都市的発展が進むほどその深刻さは大きなものであります。地方行政がその福祉施策を国に先がけしてまでも前進させなければならないのは、このこと自体庶民社会には一刻もゆるがせにできない問題だからでありましょう。

したがいましてまず七十歳以上の老人医療扶助は、国が所得制限を設定しましたが制限額以上の家庭であってもその医療費を扶養者から負担してもらうことは、老人としては容易でないと考え、これを市で負担することにいたしました。また、妊産婦、乳児の医療扶助は、県と市で折半負担となっておりますが、これにも所得制限があるので、その制限額以上の家庭のものも市で全額扶助することにいたしました。

なお、重度心身障害児者の医療費は、市単独で扶助することにしました。

予防接種
すべて無料化に

予防接種については、これまでも無料化を進めてきましたが、四十八年度はインフルエンザ予防接種を無料とすることにし、これですべてが無料化となりました。

次に保育所では、昭和四十八年度も入所児童数が八百十六名と五十八名の増加となり、とくに三歳未満児が二十二名も増加するので、これに必要な措置と保母の増員をはかりました。

また、幼稚園入園希望者もいちじるしく増加し、全員入園のためには三学級の増となるので、これに必要な教諭の増、教室の数、備品の整備などの措置も講じました。なお南保育所は私立でありますが近年、吉岡町、秋葉などの人口増加のため、保育所入所要望児が激増しており、これは当然市立とすべきものと考えられますので、いちおう四十八年度は百名定員にすべく建物を改良して運営し、今後市立移行の計画を進める所存であります。現在、老人福祉センターの設置を計画中であり、あわせてもっとも老朽化している中央保育所を、第一第二保育所の増改築でこれを収容すべく計画しているのであります。現在の老人いこいの家ならびに中央保育所跡地の処分とあわせ、関係各方面のご了解を得しだいその処置に必要ないっさいの手続きを行ない、議件と予算を本議会の会期中に追加提案申し上げたいので、何分のご理解とご協力をお願い申し上げるものであります。

インフルエンザも無料化に

マルケン 建設業者登録店 法定防火工事登録店・一級職業訓練指導員
鈴木表具店
新津市本町3丁目こせん橋下（神社側）
TEL (02502) 2―1986
開店二十五周年記念に付き四十八年度中粗品進呈致して居ります。
店主